

**「聖霊が降る」** (使 2:1~11)

ペンテコステ(五旬祭)は過越の祭から 50 日目を祝う旧約聖書時代以来の祭でした。五旬祭は元々初夏の小麦の収穫を祝う祭で、イエスの時代にはシナイ山において律法が授与された日と考えられるようになりました。ペンテコステの出来事は 2~3 節に記されています。「激しい風が吹いて来るような音」あるいは「炎のような舌」と記されています。あくまでも「のような」音、「ような」舌であり、私たちが日常に経験する激しい風、舌とは異なるものです。旧約聖書では、風や炎は神さまの臨在を示す象徴です。「聖霊が降った時に炎のような舌が弟子たち一人ひとりの上にとどまった」とは、神さま自身が彼ら一人ひとりに出会い、働きかけて下さったことを表わしていると同時に、その聖霊の働きが彼らの内面から生じてきたのではなく、外から与えられたものであることを表わしています。また、舌は聖書において語ることとの関連で出てきます。「炎のような舌」とは神さまからの炎が弟子たち一人ひとりに語る力として与えられたことを示しています。そして彼らはほかの国々の言葉で話しました。彼らはガリラヤの田舎の普通の人たちです。彼らは学んだこともない国々の言葉を突然話し出したのです。そして注目すべきことは、彼らの言葉を聞いたのはユダヤ人だけ、あるいは異邦人でもユダヤ教への改宗者だけでした。聖霊の働きによって、共同体が誕生しましたが、その共同体は最初はユダヤ人の群れでした。それは神の民イスラエルを受け継ぐものだからです。しかし、その時に弟子たちが様々な国々の言葉で話したということは、この新しいイスラエルが決してユダヤ人だけのためのものではなく、様々な国々の言葉を話す異邦人たち、全世界の人々に開かれたものとなっていくということが先取りされていたと著者は記すのです。

そして、11 節の「神の偉大な業」とは、14~36 節に記されている、この時のペテロの説教の内容だと思われます。ペテロが旧約聖書を引用して話したことは、「ナザレ人イエスこそ神から遣わされた方である。神はあなた方が十字架につけて殺したイエスを復活させられた。あの方こそキリストなのである。だから、あなた方は洗礼を受けなさい」、ということです。キリストの教会はしばしば船に譬えられます。ノアの箱舟やイエスと弟子たちが乗った舟が嵐に出会った物語などからの連想だと思います。教会という船は聖霊の風を受けることによって進む帆船であり、行き先を神さまに委ねた船なのです。ペンテコステの日に起きた、激しい風が吹いて来るような音や、炎のような舌が現れるのを、私たちは聞いたり見たりしたことはありません。しかし、私たちの一人ひとりの上に、神さまは今も働いているのです。